

第607回番組審議会報告

2016年4月5日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 小菅洋人委員 佐藤卓己委員
津村記久子委員 中野健二郎委員 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 豊田取締役 木田取締役 西田取締役 西村取締役
虫明ラジオ局長 竹田編成局長 和田アナウンサー室長 加藤アナウンス部長
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆審議事項

1. 委員の退任について

前年度の委員10名のうち上田・神谷両委員が退任されたため、新年度の委員総数は8名。引き続き、委員長に櫻井美幸委員、副委員長に佐藤友美子委員が選出された。

2. 報告事項

①ラジオ・テレビの4月改編の概要について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。

②「放送番組の種別の公表」制度に則って、平成27年度下期6か月分の番組種別ごとの放送時間を編成局長が報告した。あわせて同期間のCM総量及び4月以降の基本番組表について報告した。

3. いま求められるアナウンサーの役割 について

◆審議概要

2-①ラジオ・テレビの4月改編について

ラジオの今回の改編率は25.1%、自社制作率は97.4%。3月からFM補完放送がスタートしたことを受け、プロ野球中継、深夜ゾーンの音楽番組にこれまで以上に力を注いでいく。

テレビでは、日曜17時のMBS制作の全国ネットアニメ枠で新番組「僕のヒーローアカデミア」がスタート。MBSローカルとしては深夜等のバラエティ番組の強化を図る。キー局は月曜、日曜を中心にGP帯を強化、改編率は総放送時間の12.7%、G帯24.8%、P帯は26.4%となった。視聴率はすべての時間帯で前年度よりアップしており、これからも“より選ばれるチ

チャンネル”を目指す。

2-②「放送番組の種別」の報告について

報道番組は昨年10月から3月まで合計1万4424分で全放送時間の24.0%、教育番組は7400分で12.3%。教養番組は1万4195分、23.6%、娯楽番組は2万380分、33.9%。通販番組は3247分、5.4%。報道要素の多いベルトの新番組を編成したため、前期より報道が1000分以上増加した一方で教育・教養が減少した。

CM放送実績は、総放送時間に対する割合で前年より0.1ポイント下がり、17.4%。

3. いま求められるアナウンサーの役割について 意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *局のアナウンサーにはタレントとは違う安心感があり、信頼できる。
- *MBSはアナウンサーの年齢層に幅があって非常にいい。特に上の年齢の方が今ちょうど花開いて、すごく自然なしゃべりをしている。
- *個性を売り物にするタレントと違い、アナウンサーは視聴者との距離が近いぶん、押しつけがましくない個性、親しみやすさや温かみといったものが必要だが、MBSのアナウンサーにはそれがある。
- *若い人がたくさん出てきているのは頼もしい。ただ、アナウンサーをタレント化し過ぎたようなところが気になることがある。
- *「スキル」を持ち、それを活かす」ことが視聴者のリスペクトにつながる。たとえば、いまや日常的に海外取材があるので、もっとバイリンガルのアナウンサーがいてもよいのではないか。
- *育児と仕事を両立させている女性アナウンサーがたくさんいるが、今後もワークライフバランスを重視した、女性が働きやすい職場、放送局であってほしい。
- *精力的にやっておられる朗読イベントは素晴らしい。アナウンサーそれぞれのスキルを生かした番組が再び出来ればいいな、と思う。